

報道関係者 各位
ニュースリリース

2019年11月20日
五洋建設株式会社
鹿島建設株式会社
寄神建設株式会社

SEP型多目的起重機船（1,600t吊）の建造について

五洋建設株式会社（社長 清水琢三）、鹿島建設株式会社（社長 押味至一）、寄神建設株式会社（社長 寄神正文）の3社は、10～12MWクラスの着床式洋上風力発電施設の基礎及び風車の建設用に、1,600t吊クレーンを搭載したSEP型多目的起重機船（以下、SEP船^{※1}）を共同で建造することを決定しました。本SEP船の保有会社を五洋建設株式会社の連結子会社として設立し、3社が共同出資する形で運営する予定です。

我が国における洋上風力発電プロジェクトは、港湾区域に引き続き、一般海域においても洋上風力発電の開発を促進する法律^{※2}が整備され、全国各地で取り組みが本格化しています。

新たに建造するSEP船は、洋上風車及びその基礎構造の大型化に対応して1,600t吊全旋回式クレーンを搭載し、10～12MWクラスの洋上風力発電施設を効率的に建設することができます。基本設計は世界のSEP船の7割以上を手掛けるGustoMSC社（オランダ）が、建造はマレーシア最大の国際的コングロマリットグループであるKuok Family傘下のPax Ocean Engineering社（シンガポール）が担当します。主クレーンはオフショアクレーンのトップメーカーであるHuisman社（オランダ）のクレーンを搭載します。

本SEP船の投資額は約185億円で、完成・引き渡しは2022年9月、稼働開始は2023年3月を予定しています。

五洋建設株式会社と鹿島建設株式会社は、それぞれ北九州響灘及び銚子沖で実証機的设计・施工を担う等、着床式洋上風力発電施設の計画、設計、施工に関する実績とノウハウを有しています。寄神建設株式会社は海上でのクレーン作業等、豊富な海洋土木工事の経験があります。また、五洋建設株式会社は、国内初となる800t吊クレーンを搭載したSEP船「CP-8001」を保有し、SEP船の建造ノウハウや施工実績を蓄積しています。2隻目となる本SEP船の建造にこれらの経験を生かしてまいります。

本SEP船は、「安全かつ高効率な施工」ならびに「リーズナブルな建設コスト」の実現を通じて、日本の洋上風力発電の普及・推進に大きく貢献するものと確信しています。

※1 SEP船：自己昇降式作業台船（Self-Elevating Platform）

※2 海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律



【新 SEP 船のイメージ図】

<特長>

- ・船体をジャッキアップすることにより、気象・海象条件の厳しい海域でも、安全性、稼働率、精度の高いクレーン作業が可能です。大水深（水深 50m）での作業が可能です
- ・1,600t 吊の全回転式クレーンを搭載しており、10~12MW クラスの風車の設置、モノパイルやジャケット等の基礎の施工が可能です
- ・広いデッキスペースと十分なジャッキ能力を備えており、10~12MW クラスの風車を複数基搭載して運搬することが可能で、効率的な施工ができます
- ・ダイナミックポジショニングシステム（DPS）により船体の位置保持が可能で、ジャッキアップ時の位置決め時間を短縮します

<建造スケジュール>

2020 年 1 月 船舶保有会社設立、造船所との建造契約

2022 年 9 月 完成・引渡し